



2002

つぼみ保育園年報 第6号

2002年10月1日発行

発行/編集

社会福祉法人 馥薔会 つぼみ保育園
〒813-0044 福岡市東区千早1-18-24
[TEL] 092-681-4782 [FAX] 092-681-4780
[E-mail] tsubomi@nifty.com
[HP] http://homepage2.nifty.com/tsubomi/

トピックス

学童保育
『たんぼクラブ』
4月より開設

てきて学校での出来事をたくさん聞かせてくれます。たんぼクラブのお部屋で、おやつを食べた後は宿題をしたり、自由に遊んでいます。また、園児達の良きお姉さんでもあります。

給食室に
「スチームオーブン」
導入



に、軟水機を通った水で、野菜などのビタミン類や旨味などを逃がすことなく、加熱できるようにしています。衛生管理に十分気を付け、美味しい食事づくりに頑張っています。

「ご寄贈に感謝」

父母の会より、平成13年度の在園記念品として平太鼓2台を寄贈していただき、友愛セール収益事業としてクライムネット(遊具)と宮太鼓の購入資金の一部に充当させていただきました。秋の運動会ではつぼみ太鼓でデビューいたしました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

「どろだんご作りがブームです」

子ども達の遊びの中で昔も今も変わらない遊びのひとつに「泥だんごづくり」があります。ここ近年、大流行しているのが「光る泥だんごづくり」です。土に泥だんごづくりです。土に水を混ぜてつくするのは昔と同じですがその後、乾燥させたり、何回もやわ砂を振りかけた、磨いたりととても手間ひまがかかり愛情と根気がいります。たかが泥だんごというところが、大人もすっかりはまってしまつほどの魅力。小さい手でまなまるく作って、光る泥だんごに仕上がります。名人の指導を



受けながら何度も何度も挑戦している子ども達です。大久保先生と一緒にこの誘いにいそいそと事務室を飛び出してつくっています。

主任保育士 大久保 雅子



行事

平成十四年度

4月6日	新年度説明会
4月20日	親子歓迎遠足
5月26日	誕生会
5月25日	誕生会
5月25日	親子保育
6月25日	父母の会総会
7月5日	誕生会
7月5日	七夕まつり
7月5日	お泊まり保育(青組)
8月6日	プール開き
8月13日	サマーパーティー
8月19日	誕生会
8月30日	誕生会
9月6日	運動会
9月21日	誕生会
10月4日	敬老の集い
10月17日	リトミック発表会
10月24日	友愛セール
11月16日	誕生会
11月22日	影絵劇場(一般公開)
12月6日	作品展
12月30日	親子保育
1月7日	誕生会
1月14日	誕生会
1月20日	もちつき
1月25日	鏡開き
1月19日	たんぼ音楽会(青組) 於サンパレス
2月24日	誕生会
2月24日	まめまき
2月27日	誕生会
3月3日	発表会
3月6日	遠足(年長)
3月7日	遠足(年少)
3月13日	誕生会
3月21日	卒園式
3月28日	入園式(新園児)

皆様お元気でお過ごしでしょうか、つぼみ保育園の子ども達も職員も、毎日、元気で楽しく園生活を送っています。年報六号を送らせて頂きます、ご一読頂ければ幸いです。巻頭に、園だより「ひこうきくも」9月号に掲載した雑文をご紹介します。

「娘の心」

ある道徳教育の研究会に出席したとき、講師が右のような文章を取り上げられました。講師のお話を聴きながら、幼子に人としての尊厳を感じ、子育てにたずさわる者として心にいい意味での緊張が走りました。

万策つき果てた母親の涙は悲しみと悔しさとかそんなはつきりとした心の動きから出たものではない。心の虚しさはただただ涙が出て仕方なかったのだ。そして娘の哀願するよすがな涙顔にその説明できない気持ちが増幅され、誰はばかるとなく大声で泣いてしまった。そして娘の行動もまた説明できるものではない。彼

女は三歳 母が困っているからとか、周囲の目が恥ずかしいからとか考え、その場を収拾しようなどと考えるはずもない。困り果て、自分を失った母親、彼女の体温の微妙な変化とか、体内に走る電流のようなものが娘を突き動かして園舎に踵を返させたのだ。その後、娘が急に聞き分けのいし子になった訳でもない

今年、小学校に入学する娘は、予定より一ヶ月近い早産で未熟児だった。そのためか発育も遅れぎみで、はじめはもの珍しさも手伝って喜んで通っていた幼稚園も、六月の梅雨のころになると、ひどくいやがりだし、困らせた。あの手の手のくとき作戦にも娘の心は動かす「もう知らない」と、何度くじけそうになったことだろう。ところが、そんなある日のこと、

やっぱり雨の日だった。どうしてもしやがって行くとうしない娘の手を引き、ずるずるとして幼稚園までどうにか連れて行ったが、私が帰ろうとするときさげ、後を追ってきた。その時の私の気持ちをどう説明できるだろう。ただ涙が出て仕方がなかった。哀願するような娘の涙顔を見て、私も娘と一緒にワワワ泣いてしまった。気がつくとならぬ、なぜなら、子ども達も身近な大人を見ながら、その行動、考え方を手本として成長していくから。ただ、変化といえは彼女が幼稚園に行くことに対し抵抗がなくなつたといつて過言ではない。私が印象深く感じたのは、娘が感じた母親の何か、説明の付かない何か、彼女を「幼稚園行く」といふ行動に駆りだしたと、このことが、いわゆる人間であることの証なのだろう。といつか、「人を思いやる心の根っこが三歳の女の子の無意識に突き動かしたのだ」と思う。三歳の子どもに人としての尊厳を見たよすがな気がした。親も保育者も、何も判らぬ子どもと高を括ってはいけない。子ども達は皆、この心の根っこを潜在的に持っているのだ。大人の行動を見つめ、優しさに満ちた子育て(保育)を受けながら、子ども達は思いやり、心の力を自ら獲得していくのだ。親も保育者も、子ども達に常に見つめられていることを意識しておかなければならぬ。

昭和四十九年 毎日新聞 読者寄稿より

この話を寄稿した母親がどのような子育てをしたのかは知る由もないが、きっと優しさに満ちた家庭環境があつたことだろうと確信している。



園長 大浦純平

周年記念事業について

父母の会会長 塩見 昭彦

昨年引き続き、本年度も父母の会会長を務めさせていただいております。昨今の社会・経済環境の変化は、父母の会活動にも様々な影響を及ぼしていますが、幸い、先輩諸氏の築いてこられた足跡を指針として、会員の協力により活動を行っております。

いささか堅苦しい挨拶となつてしまいましたが、とにかく和気あいあい、明るいパワーで、本年も子ども達がより楽しく園での生活を送れるよう頑張っています。

さて、最近父母の会役員などの間で話題にのぼっているのが「周年事業」のことです。

先の30周年記念事業にあたっては、在園児・卒園児保護者を中心とする関係者各位によって実行委員会が作られ、平成7年1月14日には30周年記念祝賀会をサンパレスにおいて開催す

などの活動が行われました。またこの際の募金の一部を「周年事業費」として基金とし、毎年父母の会によりその運用・管理を行っています。

先の話にはなりますが、2年後の平成16年度(2004年)にはつぼみ保育園が40周年を迎えることとなり、周年事業を行うのであれば来年度あたりから準備が必要なのではないかと考えています。

私自身も来春には次男が卒園し、父母の会からも「卒業」となりますが、今後もつぼみ保育園の発展を願う心は、卒園児、また卒園児保護者の皆様と変わるところはありません。

いずれにしても、この件につきましては、ご相談の機会を設けていただければと思っておりますので、その節はどうかよろしくお願いたします。



塩見 昭彦



主任保育士 大久保 雅子

二度目のインド

今年、五月一日から八日までインドに行つて来ました。南インドのチェンナイ市郊外に念願の保育園が完成、落成式に出席しました。子ども達の嬉しそうな顔に今までの苦労が報われたことを確信しました。

【園長】

【園長】

一度目
五年前、一九九七年五月ある旅行団に誘われてインドを旅しました。旅のキーワードはカーズト制度とアウトカースト。

今も厳然と身分差別の残る社会でカーストの最下層にも属せぬ人々(アウトカースト・不可触民)は自らをダリット(壊されしひと)と呼ぶ。その虐げられてきた人々差別的撤廃に向けてどのような運動を試みているのかを肌で感じようと、南インド、チェンナイ市内(旧マドラス)のダリットの集落・保育園・学校等を尋ねる旅でした。

驚きのあまり次の一歩が出ない、それでも、案内の方に促されて寄つてくる子ども達にもみくちやにされながら集落の中を見せてもらいました。途中、手を出して物乞いをしていながら、近づくにいた大人が厳しい表情で止めさせました。空港を出た時におしよせてきた物乞いの人たちに驚かされていた私達は、なぜこの集落の人々はと不思議な疑問を持ちました。この集落はダリット解放の運動に参加している人たちの部落であり、施しを受け路上で生活をする人々とは違つて自らを律し、貧しくても毅然と生きて行くこととする姿勢の表れだったことを部落の長から聞かされました。人間としての尊厳を持ちたいと願う人たちの心に感動し、帰る頃には来たときに後ずさりをしたのが嘘のように、屈託のない笑顔の子ども達を抱き上げ、大人達とは握手を交わし別れを惜しましました。



施設建立の記念碑の前にて。私の真後ろに立つ人がヘンリー氏。

私を含め一行はホテルまでのバスの中、言葉を失つたように黙りこみ、それぞれ思いを耽っていました。

翌日は別の村の保育園の見学。前日のこともあり何があつても驚くまいと心して訪れました。こちらへどうぞと招き入れられたのは塀沿いに竹を組みブリキの浪板をかぶせただけの小房。中にはひしめき合うように約七〇人くらいの子も達が地面に座つており、手には小さな黒板を持ち、突然の来訪者に驚いた様子で大きな黒い目をきらきら輝かせていました。おみやげに持ってきた鉛筆や消しゴムを宝物のように受け取つてくれはしたが紙が自由に手に入らない彼らには何の意味があつたのか、使い古しのチョークが一番のプレゼントだったかもしれないと思ひました。

二度目
この旅行を機に、帰国後共に旅をした者達が集まり、何かインドの子も達にしてあげたいとインドに保育園を作る会を結成し、保育園係者を中心に多くの人々の協力を得て、約三〇〇万円の浄財を集めることができました。

二〇〇〇年五月に二度目の訪印。解放運動組織の人々に我々の気持ちを伝え、具体的な計画策定へと動き出しました。この後、組織の代表者のヘンリー氏と幾度もメールでやり取りをしながら



完成した保育施設の前にて。床面積150㎡、簡易鉄筋コンクリート造り。保育室3、シャワー・トイレ室、事務室の立派なものでした。総工費は23,000米ドル。

大切なことを決めていきまし。時には意見の相違などもあり、収拾するのに苦労したこともありましたが、今となってはいい思い出です。

三度目

そして、遂に今年の四月保育施設(右の写真)が完成し、ヘンリー氏より訪印の要請がありました。盛大な落成式が準備されており、政府の要人も参列し感謝の気持ちで十二分に伝わりました。今後、この施設はフランスのODAの協力により



寄付者全員の氏名を刻した銘板を壁に取り付けました。

保育所として運営されることになっていきます。その運営状況を年に一度は報告をくれることを約束してインドを後にしました。

お久しぶりです 懐かしの 保母さん登場

学校を卒業してはじめて勤めたつばみ保育園の園長が大浦仁子先生、主任が山口伸子先生だったのです。十年以上の御無沙汰でしたがお二人とも昔のまま、いきいきとしてらしてチャームキングな魅力、保育に対する情熱いつも前向きな姿勢、当時のままの仁子先生でした。

「久しぶりね」とい言葉にすしりと重さを感じたものです。

今年には札幌大会でした。たまたま又参加する機会を得て同じ分科会で大浦仁子の名前を見つけたことに驚きました。この年令で札幌まで来られる情熱に頭が下がるばかりでした。

私がつばみ保育園に勤めたのは昭和40年新設されたばかりで何もかもが一からのスタートでした。右も左もわからないところから無我夢中で過ごした六年間、仁子先生のもとで学んだ保育の原点は今も私の心に生き続けています。だから今も保育の仕事に携わることができるのでしよう。

「久しぶりね」とい言葉で会おうね」とおっしゃる仁子先生のバイタリティにただただ脱帽

「久しぶりね」とい言葉で会おうね」とおっしゃる仁子先生のバイタリティにただただ脱帽

跳べるか数えたり、長い所をよく走りました。雨の日には、傘をさして散歩に行きその経験をリトミックに取り入れ、体全体で表現していました。七五三のお参りでは、神社まで給食の先生が出来たての暖かい給食を自転車で運んで来てくれました。私も印象に残っています。いろいろな配慮の中で先生方や元気な子ども達、そして疲れた顔も見せず、ただいま」と明るい笑顔で迎えて来るお父さんお母さん達からも数えきれない程沢山の宝物をもらいました。その宝物を持って、私も二児の母になりました。

その頃、卒園し巣立っていったみんなもすつかり大人になり、月日の流れを感じます。古代文字の「ホツマツタへ」には、「和をもってよしとなす」という言葉があります。命への畏敬と小さなものや弱きものを慈しむ優しさが育まれました。この言葉も私の心の支えになっています。つばみでの事を考えると、心が暖かくなります。卒園児ではないけれど、五年間私も育ててもらった様に思います。

今も、これからもずっと保育士であり続けたいと願っています。

【橋本】

霜降(波江) 靖代 先生

昭和40年4月
昭和46年3月

開園からいらした波江先生は夜を徹して開園準備に携わられたと伺っています。先輩のその熱意は今も職員に受け継がれています。腕白坊主達にも、いつもおだやかで、優しく接してあつたことを今でも印象深く覚えています。現在は相模原市で主任保育士として活躍中です。



平成14年度父母の会役員

- | | |
|-----|--------------|
| 会長 | 塩見 昭彦 (つくし) |
| 副会長 | 山本 隆二郎 (つくし) |
| | 副島 克巳 (なすな) |
| | 竹若 やよい (すみれ) |
| 会計 | 高見 雅子 (つくし) |
| | 東岡 裕美枝 (なすな) |
| 書記 | 阿部 真由美 (すみれ) |
| | 野口 由美 (れんげ) |
| 委員 | 山本 倫子 (もも) |
| | 尾嶋 梢 (もも) |
| | 古江 美紀 (もも) |
| | 井上 尚子 (うめ) |
| | 根 恵子 (うめ) |
| | 梅野 礼子 (さくら) |
| | 山口 歌奈子 (さくら) |
| | 香月 美生 (すみれ) |
| | 永嶋 明子 (すみれ) |
| | 田中 由香 (れんげ) |
| | 本村 編代 (わらび) |
| | 寺井 多恵子 (なすな) |
| 監査 | 力丸 ひとみ (れんげ) |
| | 植月 文 (さくら) |

平成14年度職員構成 (10月1日現在 38名)

- | | |
|-------|--------|
| 園長 | 大浦 純平 |
| 主任 | 大久保 雅子 |
| 事務/音楽 | 大浦まゆみ |
| 年長主任 | 田村 明子 |
| もも組 | 三笠 良子 |
| | 吉澤 利恵美 |
| | 柳池 ひとみ |
| | 野田 美和子 |
| | 小田 晃子 |
| | 矢野 省子 |
| | 林 裕子 |
| | 岩 松枝 |
| | 藤田 美智子 |
| | 小西 真弓 |
| | 中村 展子 |
| | 車田 桃子 |
| | 西村 美香 |
| うめ組 | 小早川 絃美 |
| | 福重 真奈美 |
| | 藤井 由理 |
| | 阿部 俊子 |
| | 野中 智子 |
| さくら組 | 岡崎 久美子 |
| | 猿渡 健一 |
| | 林 郁子 |
| | 緒方 愛 |
| すみれ組 | 中岡 千晶 |
| れんげ組 | 白井 顕子 |
| つくし組 | 大谷 僚子 |
| わらび組 | 宮川 仁美 |
| なすな組 | 山野 亜希子 |
| 栄養士 | 森 千春 |
| | 岩崎 真樹 |
| 調理員 | 平石 律子 |
| | 中島 愛子 |
| | 山田 玲子 |
| 事務員 | 梅嶋 聡子 |
| 用務員 | 中島 涼子 |